

平成30年度試行調査（プレテスト）の問題作成における
主な工夫・改善等について

1. 試行調査における問題作成の体制について

- 試行調査の問題については、大学入試センターの「新テスト実施企画委員会」に設置された「問題調査研究部会 教科・科目別等ワーキンググループ（以下WGという。）」において、昨年度の試行調査の問題作成終了後7ヶ月～1年程度かけて集中的に議論し作成した。
本年6月18日付の通知に示したとおり、大学入試センター試験における問題評価・改善の蓄積を生かすことや、大学教育の基礎力としてどのような知識・技能や思考力・判断力・表現力を問うのかというねらいを明確にすること、高校において「どのように学ぶか」を踏まえることなどを基本的な方向性として問題を作成した。
- 各WGは10～20名程度の委員で構成されており、大学教員等が約8割（うち約5割が大学入試センター試験の作問経験者）、高校教員等が約2割となっている。
- 問題の点検については、原則として大学入試センター試験の点検を担当している教科科目第二委員会の委員から、各科目10名程度に依頼した。

2. 試行調査における工夫・改善のポイント

（1）主な工夫・改善点

＜記述式問題＞

- 国語については、記述式問題の出題範囲となる主たる題材が、論理的な文章、実用的な文章、又はそれらの組み合わせとなる予定であることを踏まえ、これまで出題イメージを提示していない論理的な文章から出題することとした。
特に、80～120字程度と最も多い文字数での解答となる問3については、解答として求める要素の整理など、言語活動の場面や正答の条件等に関する更なる精査を行った。あわせて、採点作業には多くの人数が関わることになることから、判断のブレが生じないような採点基準の工夫を更に行った。
なお、国語の問題全体として、文学的な文章や古典を題材とした問題を引き続き重視し、主たる題材としてこれまで扱われにくかった詩からの出題など、マーク式問題についても新たな工夫を行った。
- 数学については、昨年度の試行調査における正答率や無解答率を踏まえ、数式のみを記述させる問題や、短い文章で端的に記述させる問題とした。

＜問題の分量と試験時間のバランス＞

- 昨年度の試行調査において、試験時間や問題の分量について指摘が多かった科目については、問題の分量や難易度と試験時間のバランスが適切なものとなるように特に留意して問題を作成した。例えば、国語や生物において、文章量を２０００字程度減らしたり、物理や化学において、数値計算を要する問題を精選したりするなどの改善を行ったところである。
- なお、ペーパーテストという試験の性質上、国語以外の教科・科目においても問題文の読解力が求められることにはなるが、解答に当たっては必ず各科目で身に付けた知識や思考力等が発揮される設問となるよう特に留意した。

＜英語＞

- 筆記〔リーディング〕については、昨年度の試行調査の結果を踏まえつつ、引き続き「読むこと」の力を把握することを目的とする問題を出題することとし、発音、アクセント、語句整序などの問題は出題していない。
- リスニングの読み上げ回数については、昨年度の試行調査の結果を踏まえつつ、それぞれの問いでＡ１～Ｂ１のどの程度の力を求めるのかを整理した上で、各問の難易度に応じ１回読みと２回読みを振り分けることとした。

（２）各科目の工夫・改善点

①国語

- 記述式問題については、探究レポートを書くに当たって、文章を読んで考えをまとめる場面で、文章の構成や展開をとらえるなど、テキストを的確に読み取る力、及び言語活動の目的に応じて思考したことを表現する力を問う問題としている。これまで問題イメージを提示していない論理的な文章からの出題とし、共通するテーマ（言語）を扱っている二つの論理的な文章を題材とした。
- 文学的な文章や古典の題材も引き続き重視した出題とし、これまで扱われなかった詩とエッセイを関連付けて読み取る問題や、故事成語の出典となる文章（現代語訳）と漢文を比較して漢文を理解する問題を出題した。さらに、実用的な文章（広報の文章（ポスター）、法的な文章）と論理的な文章を主たる題材としたマーク式問題も出題した。
- なお、複数の題材を提示する場合には特に文章量に配慮し、全体として２０００字程度の減とした。

②数学

- 記述式問題については、基本的な概念を記号を用いて表現することや、日常事象を数理的にとらえて数学的に表現すること、解決過程を振り返って端的に記述することを問う問題とした。

- 日常事象を数理的にとらえ、数学的な表現を用いて説明する力を問うため、階段の踏面を題材に、事象を三角比を用いて表現する問題を出題した（「数学Ⅰ・数学A」第1問〔3〕）。また、コンピュータのグラフ表示ソフトを用いるなどICTを活用した学習場面を設定した問題も出題した（「数学Ⅰ・数学A」第1問〔2〕）。

問題解決に向けて、「構想を立てる」ことに焦点を当てた問題も取り入れた（「数学Ⅰ・数学A」第1問〔4〕、第5問、「数学Ⅱ・数学B」第4問、第5問）。また、会話文を通じて、基本的な概念に関する本質的な意味や理解などが問えるように工夫した（「数学Ⅰ・数学A」第2問〔2〕）。さらに、事象に関する直観的な認識と得られた計算結果のずれの意味を考える問題も取り入れた（「数学Ⅰ・数学A」第3問）。

なお、一部の問題については必要な計算式を提示するなど問題全体の難易度のバランスに留意しつつ、問題作成を行った。

③地理歴史

<世界史>

- 接触や交流をテーマに、空間軸・時間軸を広く提示し、些末な知識ではなく、世界史を大観的に理解する問題を出題した（第1問A）。また、新たな場面でも思考力・判断力・表現力を発揮して問題を解くことができるよう、初見の資料を題材とした問題を出題した（第4問B、第2問B）。さらに、日常的な場面の中で気付いた課題について考察する問題も出題した（第1問C、第2問C）。

<日本史>

- 同じ時代を別々のテーマ（「開発」と「災害」）からとらえ、立場の異なる複数の資料から読み取った情報を総合し、歴史的事象の影響の多面性を考察する問題を出題した（第1問）。また、資料に基づき時系列をとらえることで、歴史的事象の展開と概念的な理解を問う問題も出題した（第2問 問4）。さらに、世界からの影響を踏まえて中世をとらえる問題も出題した（第3問）。

<地理>

- 今後、GISの活用がますます重要となることを踏まえ、地形の3Dマップを題材とした問題を冒頭に出題した（第1問）。また、地理的事象の空間的相互依存作用などに関する理解を問うため、仮想地域における仮想の条件を基にその工場立地の変遷を考察する問題を出題した（第2問 問3）。さらに、地誌では、オセアニアを軸としつつマルチ

スケールの問題（様々なスケールでとらえる問題）とし（第4問）、地域調査では、観光やE S Dなどについて考察する問題とした（第5問）。

④公民

<現代社会>

- 昨年度の試行調査では、設問数が23問と少なかったことが受検者の正答数の分布に影響したものとも考えられることから、平成30年度試行調査では全体の設問数を増やし31問とした。
- 新聞記事の作成を通じて、関係する現代社会の諸課題について考察する問題（第1問）や、最高裁判所の判決文を通して、基本的な概念に関する理解と、それらの概念を活用して選挙や教育に関わる制度について多面的・多角的に考察する問題（第3問）などを出題した。また、「持続可能な社会」の実現や「食」をめぐる社会問題の解決など、現代社会の諸課題の探究を題材として問題を出題した（第5問、第6問）

<倫理>

- 「現代の諸課題と倫理」に関する学習が今後一層重視されることを踏まえ、課題探究的な学習を題材とした大問として独立して設定した（第4問）。また、先哲の思想や原典資料を手掛かりに思考することを重視した。人生における哲学や宗教のもつ意義などに関わる倫理的諸課題の特色や思想の社会的背景などの相互の関連について、解答が前問の解答と連動し正答の組み合わせが複数ある問題なども出題した（第1問C問7）。

<政治・経済>

- 政治、経済、国際関係に関する基本的な概念や理論等に関する理解や、現代の諸課題について様々な立場から考察する力を問う問題を重視した。多様な資料やデータを基に考察する問題（第1問B、第3問 問6・問8）や、国際的なルールとして運用される排出権取引に関する考え方をモデル化し、社会的コストが小さくなる政策を判断する問題（第2問 問7）などを出題した。また、「SDGs（持続可能な開発目標）」を取り上げ、考察した結果と根拠をまとめる問題を出題した（第4問B 問7）。

⑤理科

<物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎>

- 科学に関する基本的な概念等の理解に基づく科学的リテラシーが発揮される過程を重視し、日常生活や社会と関連した課題等を科学的に探究する問題を出題した。
具体的には、気温変化が管楽器に及ぼす影響など、日常生活にあるものを題材にした問題（「物理基礎」第1問 問2）や、投げ上げられた物体に働く力は、高さによらず「同じ大きさの重力のみ」ということが理解できているかを確認する問題（「物理基礎」第2問B 問3）、ミネラルウォーターやトイレ用洗浄剤など、日常生活にある身近なものを

試料として行う実験に関する問題（「化学基礎」第1問 問3、第3問）や、初見の資料を読み、別々の単元で学習した内容を統合して考察する問題（「化学基礎」第2問 問2）、葉の断面の模式図などから、事物・現象に関する基本的概念を基に比較分析する問題（「生物基礎」第1問A 問1）や、実験の目的を適切に把握して計画を立てる問題（「生物基礎」第1問A 問3）、土石流による堆積物の断面図のスケッチを基に、観察結果から推論される内容を考察する問題（「地学基礎」第2問B）や、江戸時代の記録を基に、推定された台風の経路を考察する問題（「地学基礎」第2問C 問5）などを出題した。

<物理>

- ICT機器の利活用を含む、観察・実験を重視した問題を出題した。生徒には初めてとなる実験を題材とし、見いだした性質を既習事項に結び付け総合的に考察する問題（第3問B 問3、問4）や、初めて「力センサー」を使って実際に計測しパソコンに取り込んだ実験データを題材とした（第2問B）。また、物理では、規則性を見出すため、空気抵抗などを無視して現象を単純化したり、概数や有効数字で検討したりすることが重要であることから、問題の図2で示されたグラフを三角形とみなして考えられるかといった問題（第2問B 問3）や、短い区間での速度変化を無視し、単純化して結論を導けるかといった問題（第4問B 問4）などを出題した。

<化学>

- 生徒が図書館で調べたことをまとめた資料を題材に、新たに得た知識を既習事項に結び付け総合的に考察する問題（第2問B）や、「理科課題研究」においてかぜ薬の合成をテーマとした場合の研究経過を取り上げた問題（第3問B）を出題した。また、日常生活とつながるカセットボンベを題材として、表に示された5種類の有機化合物のデータからそれぞれの性質をとらえて考察する問題（第1問A）を出題した。反応速度に関する実験データを基にグラフを描くことで数値を求める問題（第1問B）なども出題した。

<生物>

- 遺伝子組換え技術を題材に、実験の結果について複数の可能性を考察する問題（第5問A）や、ある地域の調査官として個体群の動態や絶滅のリスクを考察する問題（第4問）を出題した。また、教科書では別々の単元（「生殖と発生」と「生物の進化と系統」）において学習する内容が融合した実験の結果を題材とし、受検者にとって既知ではない資料に示された事物・現象を分析的、総合的に考察する問題（第2問A）を出題した。

<地学>

- ある地域の地質の成り立ちを観察する場面を取り上げ、地層の調べ方を活用したり、研究記録を基に地層の空間的な広がりや推定したりする問題を出題した（第3問）。また、地球における極向きの熱輸送について、模式図を基に考察する問題を出題した（第4問B）。ある岩石に関連した学習内容のつながりを示す図を手掛かりに、地球における多様な事物・現象や内部構造に関する理解を整理する問題（第1問）なども出題した。

⑥英語

- 試行調査においては、英語の資格・検定試験活用に関する方針も踏まえながら、「読むこと」「聞くこと」の能力をバランスよく把握するため、筆記（[リーディング]。マーク式）とリスニング（マーク式）を課すこととし、CEFRを参考に、A1～B1までの問題を組み合わせて出題した。英語教育改革の方向性の中で各技能の能力をバランスよく把握することが求められていることや、多くの英語の資格・検定試験で各技能の配点が均等となっている状況を踏まえ、「筆記 [リーディング]」と「リスニング」の配点を均等とした。

<筆記 [リーディング]>

- 授業における主な言語活動を念頭に、明確な目的や場面、状況の設定を重視することとし、授業でディベートを行う準備として記事を読む問題（第2問B）やグループでプレゼンテーションをするための準備として記事を読む問題（第5問、第6問A）などを出題した。「読むこと」の力を把握することを目的としたことから、発音、アクセント、語句整序などの問題は出題していない。

<リスニング>

- 実際のコミュニケーションや言語の使用場面をより一層反映することを重視することとし、複数の学生寮についての説明を聞き、自分が考えている条件に最も合う寮を判断して一つ選ぶ問題（第4問B）や、ゲームに関する意見を聞いて、話者の立場を判断する問題（第6問B）などを出題した。読み上げ回数については、基本的にB1程度の力を求める問いにおいては1回読みとした。

3. 大学入学共通テストの問題作成に向けて

- 試行調査については、結果の分析・検証を経て年度内には報告書を公表予定であり、上記の工夫・改善点に関連する検証結果も同報告書において報告し、大学入学共通テストの問題作成方針に反映していく予定である。また、来年度初頭には、各教科・科目における問題のねらいや実施方法等に関する通知として周知する予定である。
- 問題作成に当たっては、同一日程で実施される大規模のペーパーテストであるという試験の性質を踏まえつつ、大学入学共通テストを通じて問おうとする思考力、判断力、表現力がどのような範囲のものなのかについて、受検者や高校、大学との共通理解が図られるよう、科目ごとに別添のような表を整理した。
この表は、大学入試センターの「大学入学共通テスト企画委員会」に設置された「問題作成方針分科会」における更なる精査を経て、確定版を公表する予定である。
- 試行調査の問題作成段階では、大学教員と高校教員が議論しながら問題作成をしていくことで、高校の教科教育の現状や大学教育の基礎力として接続段階で求める力につい

て高大間での理解の共有が進み、高大接続を進める観点から大きな進展となった。

今後、大学入学共通テストの問題作成自体は大学教員が担うことになるが、高校教員も参加する「問題作成方針分科会」において、高校教育の成果から大学教育の基礎力として何を求めるのか、問題作成の持続可能性を維持するための題材の確保等に関し、大学教員と高校教員の間で議論できる体制を受け継いでいく予定である。

こうした議論を継続する中で、2024年度からの大学入学共通テストに向けても、新しい教育課程を踏まえた教科・科目構成の在り方や、採点技術の変化を踏まえた記述式問題を通じて問いたい内容の将来的な充実などを、引き続き議論していく予定である。

(別添資料)

各教科・科目等の作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」、及びそれらと出題形式との関係についてのイメージ（素案）

平成30年11月現在

【国語】作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」，及びそれらと出題形式との関係についてのイメージ（素案）

検討中

※ 試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ，更に整理する。

※ 作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」と出題形式との関係は，例として挙げているものであり，問い方や場面等によっては別の出題形式等で問う可能性もあり得る。

※ ここでの「テキスト」は，文章，及び，文章になっていない断片的な言葉，言葉が含まれる図表などの文章以外の情報を含む。

※ 「話すこと・聞くこと」の領域を意識した設定も取り入れる。

		＜読むこと＞ 【構造と内容の把握】（叙述に基づいて，文章の構造や内容を把握すること） 【精査・解釈】（構成や叙述などに基づいて，文章の内容や形式について，精査・解釈すること）	＜読むこと＞ 【考えの形成】（文章を読んで理解したことなどに基づいて，自分の考えを形成すること）	＜書くこと＞ 【題材の設定】【情報の収集】【内容の検討】（目的や意図に応じて題材を決め，情報を収集・整理し，伝えたいことを明確にすること）	＜書くこと＞ 【構成の検討】（文章の構成を検討すること） 【考えの形成】【記述】（自分の考えを明確にし，記述の仕方を工夫すること） 【推敲】（読み手の立場に立ち，自分が書いた文章についてとらえ直し，分かりやすい文章にすること）
大学入学共通テストにおいて問いたい「思考力・判断力・表現力」	テキストの内容や解釈を解答する問題	①テキストの部分を把握，精査・解釈して解答する問題 選択式／記述式	テキストの部分に書かれていること（構造や内容）を把握，精査・解釈することができる (例) ○テキストにおける語句の意味や比喻等の内容を適切にとらえることができる ○テキストにおける文や段落の内容を，接続の関係を踏まえて解釈することができる ○テキストの特定の場面における人物，情景，心情などを解釈することができる		
		②テキストの全体を把握，精査・解釈して解答する問題 選択式／記述式	テキストの全体に書かれていること（構造や内容）を把握，精査・解釈することができる (例) ○テキスト全体における書き手の考えとその根拠をとらえることができる ○目的等に応じて情報をとらえ，テキスト全体の要旨を把握することができる ○テキスト全体における人物相互の関係の変容や心情の変化を適切にとらえたり，言動の意味を解釈したりすることができる ○テキスト全体を通じて対比されている事項について考察し，共通点や相違点を整理することができる ○テキスト全体の構成や展開，表現の仕方等を評価することができる		
	考えを解答する問題	③テキストの精査・解釈に基づく考えを解答する問題 選択式／記述式	テキストに書かれていること（構造や内容）を把握した上で，テキスト全体から精査・解釈し，それに基づき考えを形成することができる (例) ○テキストを踏まえ，推論による情報の補足や，既有知識や経験による情報の整理を行って，テキストに対する考えを説明することができる ○テキストを踏まえ，条件として示された目的等に応じて，必要な情報を比較したり関連付けたりして，テキストに対する考えを説明することができる ○テキストに含まれている情報を統合したり構造化したりして，内容を総合的に解釈し，テキストに対する考えを説明することができる		
		④テキストの精査・解釈を踏まえて発展させた自分の考えを解答する問題 自由記述式／小論文	テキストに書かれていること（構造や内容）を把握した上で，テキスト全体から精査・解釈し，それを踏まえながら発展的に自分の考えを形成することができる (例) ○テキストにおける書き手の考えを踏まえた上で，テキストに示されたテーマについて自分の考えを論じることができる ○テキストに示されたテーマについて，仮説を立てたり，既有知識や経験を具体的に挙げたりしながら，自分の考えを論じることができる ○テキストと自分自身との関わりを考え，自分自身の問題として論じることができる		

別添1

【数学】作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」，及びそれらと出題形式との関係についてのイメージ（素案）

検討中

※試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ，更に整理する。

※作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」と出題形式との関係は，例として挙げているものであり，問い方や場面等によっては別の出題形式等で問う可能性もあり得る。

		A	B	C	D	E
		日常生活や社会の問題を数理的にとらえること 数学の事象における問題を数学的にとらえること	数学を活用した問題解決に向けて，構想・見通しを立てること	焦点化した問題を解決すること	解決過程を振り返り，得られた結果を意味づけたり，活用したりすること 解決過程を振り返るなどして概念を形成したり，体系化したりすること	数学的な表現を用いて表現すること
大学入学共通テストにおいて問いたい「思考力・判断力・表現力」	①マーク式 多肢選択式・数値解答式	日常生活や社会の問題における事象の数量等に着目して数学的な問題を見いだすことができる	数学的な問題の本質を見いだすことができる（洞察力）	焦点化した問題を目的に応じて数・式，図，表，グラフなどを活用し，一定の手順にしたがって数学的に処理することができる	解決過程を振り返り，得られた結果を元の事象に戻してその意味を考えることができる	
		日常生活や社会の問題における事象の特徴をとらえて数学的な表現を用いて表現する（事象を数学化する）ことができる	数学的な問題を解決するための見通しを立てることができる（構想力）	焦点化した問題を数学的な見方・考え方を基に，的確かつ能率的に処理することができる	解決過程を振り返り，得られた結果を様々な事象に活用することができる	
		数学の事象から問題を見いだすことができる		焦点化した問題を解決することについて，論理的に推論することができる（帰納，類推，演繹）	解決過程を振り返るなどして，数学的な見方・考え方のよさを見いだすことができる	
		数学の事象から特徴をとらえ，数学化することができる			解決過程を振り返るなどして，得られた結果を基に批判的に検討し，体系的に組み立てていくことができる	
		数学の事象から得られた結果を基に拡張・一般化することができる			解決過程を振り返るなどして，見いだした事柄を既習の知識と結び付け，概念を広げたり深めたりすることができる	
					解決過程を振り返るなどして，統合的・発展的に考えることができる	
	②新テストにおける記述式 数式や問題解決の方略等を解答させる記述式	日常生活や社会問題を数学的にとらえた際に設けた条件等を説明することができる	問題解決の構想等を理解したり，その構想の根拠を数学的に説明したりすることができる	数学における基本的な概念や原理・法則等の理解を基に，公式や定理等を用いて問題を解決する方法を説明することができる	得られた結果の数学的意味や別の方法で解決する方略等を見だし，説明することができる	数学的な表現を用いた説明を理解したり評価したりすることができる
		特定の場合に成り立つ性質が，一般の場合でも成り立つかを考え表現することができる	成り立つことが予測される数学的な事柄・事実を，数学的な表現を用いて説明することができる	問題場面における数量関係を式に表すことができる	解決過程を振り返るなどして概念を形成したり，体系化したりして統合的・発展的に考えた結果を数学的に表現することができる	目的に応じて，自分の考えなどを数学的な表現を用いて的確に説明することができる
（参考）	③自由記述式 証明など，数学的な問題解決のプロセスを表現する自由記述式	日常生活や社会問題について，条件を設定したり，数学の事象について，条件の設定を変更するなどして新たな数学の問題をつくることができる	命題が真であることを証明するための根拠となる数学的事実（公式や定理等）をとらえ，問題解決に向けた構想や見通しを立てることができる	平面図形や空間図形の複合的な問題について，それらの特徴を活用して，計量したり証明したりすることができる	得られた結果の意味を元の事象に戻してその意味を考えたり，条件を変更するなどした場合にも同様に成り立つかを調べることができる	問題解決の過程を数学的な表現を適切に用いて説明することができる
		数学の事象において数量の変化について実験して調べるなどして，新たな問題をつくることができる	命題の真偽を類推したり，ある命題を他の同値な命題に言い換えたりして数学的な問題の本質をとらえることができる	関数や方程式・不等式の複合的な問題について，それらの特徴を踏まえて条件に適する数値を求めたり，証明したりすることができる	用いた解決方法を発展させ，他の日常生活や社会問題についての事象や数学の事象の解決に活用することができる	得られた結果の数学的意味をとらえ，それを数学的な表現を用いて適切に説明することができる

算数・数学の学習過程のイメージ

算数・数学における問題発見・解決の過程と育成を目指す資質・能力

事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決することができる。

日常生活や社会の事象を数理的に捉え、
数学的に処理し、問題を解決することができる。

数学の事象について統合的・発展的に考え、
問題を解決することができる。

思考・判断

表現

人間性

A1 日常生活や社会の問題を数理的に捉えることについて

- 事象の数量等に着目して数学的な問題を見いだす力
- 事象の特徴を捉えて数学的な表現を用いて表現する力(事象を数学化する力)



D1 解決過程を振り返り、得られた結果を意味づけたり、活用したりすることについて

- 得られた結果を元の事象に戻してその意味を考える力
- 様々な事象に活用する力

数学的に表現した問題

B 数学を活用した問題解決に向けて、構想・見通しを立てることについて

- 数学的な問題の本質を見いだす力(洞察力)
- 数学的な問題を解決するための見通しを立てる力(構想力)

焦点化した問題

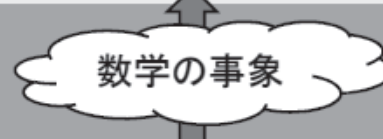
C 焦点化した問題を解決することについて

- 目的に応じて数・式、図、表、グラフなどを活用し、一定の手順にしたがって数学的に処理する力
- 数学的な見方・考え方を基に、的確かつ能率的に処理する力
- 論理的に推論する力(帰納、類推、演繹)

結果

A2 数学の事象における問題を数学的に捉えることについて

- 数学の事象から問題を見いだす力
- 事象の特徴を捉え、数学化する力
- 得られた結果を基に拡張・一般化する力



D2 解決過程を振り返るなどして概念を形成したり、体系化したりすることについて

- 数学的な見方・考え方のよさを見いだす力
- 得られた結果を基に批判的に検討し、体系的に組み立てていく力
- 見いだした事柄を既習の知識と結びつけ、概念を広げたり深めたりする力
- 統合的・発展的に考える力

E 数学的な表現を用いて、人々と交流し合うことについて

- 数学的な表現を用いた説明を理解したり評価したりする力
- 目的に応じて、自分の考えなどを数学的な表現を用いて説明する力

※これらの力は必ずしもこの位置のみに位置づけわけではない

F 学習に向かう力、態度について

- 過程や結果を吟味し、評価・改善する態度
- 多面的に考え、粘り強く問題の発見や解決に取り組む態度

平成28年12月21日 中央教育審議会
「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」より抜粋

【歴史】作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」についてのイメージ（素案）

検討中

※試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ、更に整理する。

大学入学 共通テスト において 問いたい 「思考力・ 判断力・ 表現力」	【考察・構想(注)】	【説明】
	●歴史に関わる諸事象等の意味や意義、特色や相互の関連について、概念等を活用して多面的・多角的に考察することができる ●歴史に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想することができる ・複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断することができる	●考察したことや構想したことを適切な資料・内容や表現方法を選び効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる ・学習課題を振り返って結論をまとめることができる ・結論について検証することができる ・新たな問い（課題）を見いだしたり追究したりすることができる ○作問にあたっての場面設定の工夫例 ・歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり議論したりするなどの活動を通して、現代につながる諸課題について自分の意見を形成する場面 ・歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり議論したりする活動を通して、新たな課題を見いだす場面
	資料から読み取った情報と歴史的事象との関わりを類推することができる	考察したことや構想した過程や結果を、理由や根拠に基づいてまとめることができる
	歴史的事象を時系列的にとらえることができる（時系列）	
	資料から読み取った情報や習得した知識を活用して、歴史的事象の展開について考察することができる（推移や変化）	
	複数の歴史的事象を比較して共通性や差異をとらえることができる（諸事象の比較）	
	諸地域世界の接触や交流などが歴史的事象にどのように作用したのかを明らかにすることができる（事象相互のつながり）	
	背景、原因、結果、影響に着目して歴史の諸事象相互の関連を明らかにすることができる（事象相互のつながり）	
	歴史的事象の多面的・多角的な考察を通して、日本や世界の歴史の展開や歴史的な意味や意義をとらえることができる	
	習得した歴史的概念を活用し、現代的課題に応用することができる	

（注）構想については、社会科系科目に見られる課題の解決に向けて、広い視野から構想（選択・判断）することを示している。（参考：『平成28年12月21日中央教育審議会答申』より）

○自由記述では、以下のことを問える可能性がある。

- ・歴史的事象を多面的・多角的に考察して、論理的・効果的に表現することができる
- ・歴史的事象について考察したことを踏まえて、課題の解決に向けた自分の意見を形成して、適切に表現することができる
- ・考察したことや構想したことから、新たな課題を見いだして追究することができる

【地理】作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」についてのイメージ（素案）

検討中

※試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ、更に整理する。

【考察・構想(注)】	【説明】
●地理に関わる諸事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察することができる ●地理的な課題を把握し，その解決に向けて構想することができる ・複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断することができる	●考察したことや構想したことを適切な資料・内容や表現方法を選び効果的に説明したり，それらを基に議論したりすることができる ・学習課題を振り返って結論をまとめることができる ・結論について検証することができる ・新たな問い（課題）を見いだしたり追究したりすることができる ○作問にあたっての場面設定の工夫例 ・地理的な課題を探究する活動を通して，その解決や持続可能な将来の在り方を展望する場面 ・資料から地理的事象を読み取り，地域の変容や構造を考察し，それらの地域にみられる地域的特色や課題について説明したりする場面 ・新たな発見や理解の深化を見だし，改めて課題を設定し，情報の収集，整理・分析を行っていく場面

大学入学 共通テスト において 問いたい 「思考力・ 判断力・ 表現力」	事象について位置や分布などからとらえ考察することができる	地理的事象を多面的・多角的に考察した過程や結果を，理由や根拠に基づいてまとめることができる
	事象が生起している場所の特徴をとらえ考察することができる	
	地理的事象について人間や社会と自然環境との相互依存関係などの関わりをとらえ考察することができる	
	地理的事象について空間的相互依存作用など地域間の様々な関係をとらえ考察することができる	
	地域的特色について多面的・多角的に考察することができる	
	地理的な課題について多面的・多角的に考察し，解決策を合理的に構想（選択・判断）することができる	

（注）構想については，社会科系科目に見られる課題の解決に向けて，広い視野から構想（選択・判断）することを示している。（参考：『平成28年12月21日中央教育審議会答申』より）

- 自由記述では，以下のことを問える可能性がある。
- ・主題図などの資料を，適切に作成することができる
 - ・地理的事象を多面的・多角的に考察し，構想した結果，地域調査や諸資料などの根拠に基づいて論理的・効果的に表現することができる
 - ・現代世界の地理的な課題の解決について，自らの解釈も加えて意見を形成し，適切に表現することができる
 - ・課題に対して，具体的な解決策を提言することができる

【現代社会】作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」についてのイメージ（素案）

検討中

※試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ、更に整理する。

	【考察・構想(※注)】 ●社会的事象等の意味や意義，特色や相互の関連について，概念等を活用して多面的・多角的に考察することができる ●現代社会に見られる課題を把握し，その解決に向けて構想することができる ・複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断することができる	【説明】 ●考察したことや構想したことを適切な資料・内容や表現方法を選び効果的に説明したり，それらを基に議論したりすることができる ・学習課題を振り返って考察した過程や結果を適切にまとめることができる ・結果について吟味したり検証することができる ・新たな問い（課題）を見いだしたり追究したりすることができる ○作問にあたっての場面設定の工夫例 ・社会的事象等を多面的・多角的に考察する学習活動を通じて，現代社会の課題について自分の意見を形成しようとする場面
大学入学 共通テスト において 問いたい 「思考力・ 判断力・ 表現力」	社会的事象等をとらえる「考え方」に基づいて対象を考察し，現代社会の諸課題を把握し，関連性や社会的な意味をとらえることができる	社会的事象等を多面的・多角的に考察した過程や結果を，理由や根拠に基づいてまとめることができる
	概念や理論を活用し，制度や政策の本質，又は日常生活に見られる人々の行為の意味をとらえることができる	
	概念や理論を活用し，社会的事象等の意味や意義を解釈することができる	
	概念や理論を活用し，社会的事象等の原因と結果の関連性について考察することができる	
	社会的事象等を多面的・多角的に考察し，課題の解決に向けて，公正に判断することができる	
	様々な立場からの主張を，根拠に基づいて多面的・多角的に考察し，課題の解決に向けて，公正に判断することができる	

※注） 構想については，社会科系科目に見られる課題の解決に向けて，広い視野から構想（選択・判断）することを示している。（参考：『平成28年12月21日中央教育審議会答申』より）

○自由記述では，以下のことを問える可能性がある。

- ・社会的事象等を考察するにあたって，自ら課題設定し，適切な資料や方法を用いて考察することができる
- ・社会的事象等を多面的・多角的に考察し，自らが構想した過程や結果を諸資料などの根拠に基づいて論理的・効果的に表現することができる
- ・社会的事象等を多面的・多角的に考察した過程や結果を踏まえ，課題解決に向けて自分の意見を形成して，適切に表現することができる
- ・考察したことや構想したことから，新たな課題を見いだすことができる

【倫理】作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」についてのイメージ（素案）

検討中

※試行調査の検証・分析の結果及び高など学校学習指導要領の見直しの内容などを踏まえ、更に整理する。

【考察・構想(※注)】 ●倫理的諸課題の意味や意義，特色や相互の関連について，概念等を活用して多面的・多角的に考察することができる ●現代の諸事象にかかわる倫理的諸課題を把握し，その解決に向けて構想することができる ・複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断することができる	【説明】 ●考察したことや構想したことを適切な資料・内容や表現方法を選び効果的に説明したり，それらを基に対話したりすることができる ・学習課題を振り返って考察した過程や結果を適切にまとめることができる ・結果について吟味したり検証したりすることができる ・新たな問い（課題）を見いだしたり追究したりすることができる ○作問にあたっての場面設定の工夫例 ・倫理的諸課題を多面的・多角的に考察する学習活動を通じて，人間としての在り方生き方について自分の意見を形成しようとする場面
諸資料を活用して，必要な情報を読み取り，倫理的諸課題をとらえることができる	倫理的諸課題を多面的・多角的に考察した過程や結果を，理由や根拠に基づいてまとめることができる
倫理的な見方や考え方を働かせて，社会生活や日常生活の中の倫理的諸課題をとらえることができる	
先哲の思想などを手掛かりとして，倫理的諸課題の特色，背景などの相互の関連性について考察することができる	
倫理的な見方や考え方を働かせて，倫理的諸課題について，論理的に思考することができる	
社会生活や日常生活の中の倫理的諸課題について，批判的に吟味したり多面的・多角的に考察したりすることができる	
倫理的諸課題について，様々な立場からの主張を，根拠に基づいて多面的・多角的に考察し，公正に判断することができる	

※注） 構想については，社会科系科目に見られる課題の解決に向けて，広い視野から構想（選択・判断）することを示している。（参考：『平成28年12月21日中央教育審議会答申』より）

- 自由記述では，以下のことを問える可能性がある。
- ・倫理的諸課題を考察するにあたって，自ら課題設定し，適切な資料や方法を用いて考察することができる
 - ・倫理的諸課題を多面的・多角的に考察し，自らが構想した過程や結果を諸資料などの根拠に基づいて論理的・効果的に表現することができる
 - ・倫理的諸課題を多面的・多角的に考察した過程や結果を踏まえ，課題解決に向けて自分の意見を形成して，適切に表現することができる
 - ・考察したことや構想したことから，新たな課題を見いだすことができる

【政治・経済】作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」についてのイメージ（素案）

検討中

※試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ、更に整理する。

【考察・構想(※注)】 ●社会的事象等の意味や意義，特色や相互の関連について，概念等を活用して多面的・多角的に考察することができる ●現代の政治，経済，国際関係に見られる課題を把握し，その解決に向けて構想することができる ・複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断することができる	【説明】 ●考察したことや構想したことを適切な資料・内容や表現方法を選び効果的に説明したり，それらを基に議論したりすることができる ・学習課題を振り返って考察した過程や結果を適切にまとめることができる ・結論について吟味したり検証することができる ・新たな問い（課題）を見いだしたり追究したりすることができる ○作問にあたっての場面設定の工夫例 ・社会的事象等を多面的・多角的に考察する学習活動を通じて，現代の政治，経済，国際関係の課題について自分の意見を形成しようとする場面
諸資料を活用し，現代における政治，経済，国際関係に関わる課題をとらえることができる。	現代における政治，経済，国際関係に関わる課題を多面的・多角的に考察した過程や結果を，理由や根拠に基づいてまとめることができる。
現代における政治，経済，国際関係に関わる「考え方」や制度，政策などの本質をとらえることができる。	
現代における政治，経済，国際関係に関わる事象の関係やその意味や意義について考察することができる。	
現代における政治，経済，国際関係に関わる事象について吟味し，その因果関係を多面的・多角的に考察することができる。	
現実社会の諸課題を多面的・多角的に考察し，課題の解決に向けて，公正に判断することができる。	
現実社会の諸課題について，その解決に向けて，様々な立場からの主張を根拠に基づいて考察し，公正に判断することができる。	

※注） 構想については、社会科系科目に見られる課題の解決に向けて、広い視野から構想（選択・判断）することを示している。（参考：『平成28年12月21日中央教育審議会答申』より）

- 自由記述では、以下のことを問える可能性がある。
- ・社会的事象等を考察するにあたって、自ら課題設定し、適切な資料や方法を用いて考察することができる
 - ・社会的事象等を多面的・多角的に考察し、自らが構想した過程や結果を諸資料などの根拠に基づいて論理的・効果的に表現することができる
 - ・社会的事象等を多面的・多角的に考察した過程や結果を踏まえ、課題解決に向けて自分の意見を形成して、適切に表現することができる
 - ・考察したことや構想したことから、新たな課題を見いだすことができる

【理科】作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」についてのイメージ（素案）

検討中

科学的な自然観を育成するための各領域における特徴的な見方

- エネルギー（主に、物理）：量的・関係的な視点
- 粒子（主に、化学）：質的・実体的な視点
- 生命（主に、生物）：多様性と共通性の視点
- 地球（主に、地学）：時間的・空間的な視点

※試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ、更に整理する。

大学入学 共通テスト において 問いたい 「思考力・ 判断力・ 表現力」	課題の把握	課題の探究（追究）		課題の解決	
	抽出・整理した情報について、それらの関係性や傾向を見いだすとともに、課題を設定することができる	見通しをもち、検証できる仮説を設定し、それを確かめるための観察・実験の計画を評価・選択・決定することができる	観察・実験等の結果を分析・解釈することができる	仮説の妥当性を検討したり、考察したりすることができる	全体を振り返って推論したり、次の課題を発見したり、新たな知識やモデル等を創造したりすることができる
	図・表や資料等から、自然の事物・現象に係る情報を、原理・法則に従って抽出し、関係性などを発見することができる	自然の事物・現象に係る仮説を立証するため、原理・法則に従い、その方法・過程などを決めることができる	自然の事物・現象に係る基本的な概念と、観察・実験等の結果などから得た情報を、原理・法則に従って統合することができる	観察・実験等の結果から考察した情報と、自然の事物・現象の基本的な概念との整合性を、原理・法則に従って判断することができる	自然の事物・現象の基本的な概念を基に、見いだした課題について、原理・法則に従って推論することができる
	図・表や資料等を基に、設定した条件で自然の事物・現象に係る情報を、原理・法則に従い、整理することができる	自然の事物・現象の基本的な概念を活用し、原理・法則に従って新たな情報を基に仮説を立てることができる	自然の事物・現象に係る基本的な概念を基に、原理・法則に従って情報を一定の条件で処理することができる	自然の事物・現象に係る新たに得た情報と、結果などから得た情報を、原理・法則に従って統合することができる	探究活動を振り返り、自然の事物・現象に係る新たな課題について、原理・法則に従って再設定することができる
		自然の事物・現象に係る情報を検証し、設定する条件などについて、原理・法則に従い判断することができる	新たな情報が、自然の事物・現象の基本的な概念によって、原理・法則に従い、説明できることを見いだすことができる	自然の事物・現象に係る様々な情報を、原理・法則に従って整理するときの根拠を見いだすことができる	
			自然の事物・現象に係る基本的な概念及び観察・実験の結果などを、原理・法則に従って比較分析することができる	自然の事物・現象に係る数値的処理を一定の条件で行い、その結果を基に、原理・法則に従って考察することができる	
			自然の事物・現象に係る値について、原理・法則に従って処理し、グラフ等を活用して分析することができる		

【英語（リーディング）】作問のねらいとする資質・能力についてのイメージ（素案）

検討中

※試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ、更に整理する。

		A1	A2	B1	B2（参考）
（参考） CEFR 自己評価表		例えば、掲示やポスター、カタログの中をよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。	ごく短い簡単なテキストなら理解できる。 広告や内容紹介のパンフレット、メニュー、予定表のようなものの中から日常の単純な具体的に予測がつく情報を取り出せる。 簡単に短い個人的な手紙は理解できる。	非常によく使われる日常言語や、自分の仕事関連の言葉で書かれたテキストなら理解できる。 起こったこと、感情、希望が表現されている私信を理解できる。	筆者の姿勢や視点が出ている現代の問題についての記事や報告が読める。 現代文学の散文は読める。
国の指標形式の 主な目標		□日常生活において身の回りにある英語の中の語句や単純な文を理解できるようにする。 □平易な英語で書かれたごく短い物語を読んで、視覚情報などを参考にしながら、あらすじを理解することができるようにする。 □身の回りの事柄に関して平易な英語で書かれたごく短い説明を読んで、視覚情報などを参考にしながら、概要を理解することができるようにする。	□日常生活において身の回りにある短い平易なテキストから、必要な情報を読み取ることができるようにする。 □平易な英語で書かれた短い物語を読んで、あらすじを理解できるようにする。 □身近な話題に関して平易な英語で書かれた短い説明や手紙を読んで、概要や要点を理解できるようにする。	□身近な話題に関する比較的短い記事やレポート、資料から、必要な情報を読み取ることができるようにする。 □短い物語を読んで、あらすじを理解することができるようにする。 □社会的な話題に関する短い会話や説明を読んで、概要や要点を理解できるようにする。 □英語学習を目的として書かれた記事やレポートを読んで、概要や要点を理解できるようにする。	□関心のある分野の記事や資料から、必要な情報を読み取ることができるようにする。 □興味のある現代小説や随筆を読んで、概要を理解することができるようにする。 □時事問題や社会問題に関する記事やレポート、資料を読んで、概要や要点、筆者の姿勢や視点を理解できるようにする。
説明文	①部分の把握 ※テキストの部分把握して解答する問題	○簡単な語句や単純な文の読み取り ・日常生活に関連した身近な掲示、カタログ、パンフレットなどから、自分が必要とする情報を読み取ることができる。	○平易で短いテキストの読み取り ・平易な表現が用いられている広告、パンフレット、予定表などから、自分が必要とする情報を読み取り、書き手の意図を把握することができる。	○短い説明の読み取り ・比較的短い記事、レポート、資料などから、自分が必要とする情報を読み取り、論理の展開や書き手の意図を把握することができる。	○幅広い話題を扱った英文の情報読み取り ・幅広い話題を扱った記事、レポート、資料などから、自分が必要とする情報を把握することができる。
	②全体の把握 ※テキストの全体把握して解答する問題	○平易でごく短い説明（視覚情報付）の概要・要点把握 ・友人、家族、学校生活などの身の回りの事柄に関して平易な英語で書かれたごく短い説明を読んで、イラストや写真などを参考にしながら、概要や要点を捉えたり、推測したり、情報を事実と意見に整理することができる。	○平易で短い説明の概要・要点把握 ・友人、家族、学校生活などの身近な話題に関して平易な英語で書かれた短い説明を読んで、概要や要点を捉えたり、情報を事実と意見に整理することができる。	○身近な話題や馴染みのある社会的な話題に関する平易な説明などの概要・要点把握や情報の整理 ・身近な話題や馴染みのある社会的な話題に関する記事やレポート、資料などを読んで概要や要点を把握したり、情報を整理したりすることができる。また、文章の論理展開を把握したり、要約することができる。	○時事問題や社会問題に関する説明などの情報読み取りや概要・要点把握 ・時事問題や社会問題について幅広く情報を得るために効果的な資料を自分で探し、概要・要点把握など、目的に応じた読み方をすることができる。
物語文	①全体の把握 ※テキストの全体把握して解答する問題	○平易でごく短い物語（視覚情報付）の概要把握 ・平易な英語で書かれたごく短い物語を読んで、イラストや写真などを参考にしながら、概要を把握することができる。	○平易で短い物語の概要把握 ・平易な英語で書かれた短い物語を読んで、概要を把握することができる。	○短い物語の概要把握 ・短い物語を読んで、概要を把握することができる。	○現代小説や随筆の概要把握 ・比較的簡単な現代小説や随筆を読んで、概要を把握することができる。

○作問にあたっては、次の「言語の使用場面」及び「言語の働き」の例を参考にする。

〔言語の使用場面の例〕
 〈特有の表現がよく使われる場面〉・買物 ・旅行 ・食事 ・電話での応答 ・手紙や電子メールのやりとり など
 〈生徒の身近な暮らしや社会での暮らしにかかわる場面〉・家庭での生活 ・学校での学習や活動 ・地域での活動 ・職場での活動 など
 〈多様な手段を通じて情報などを得る場面〉・本、新聞、雑誌などを読むこと ・テレビや映画などを観ること ・情報通信ネットワークを活用し情報を得ること など

〔言語の働きの例〕
 〈コミュニケーションを円滑にする〉・相づちを打つ ・聞き直す ・繰り返す ・言い換える ・話題を発展させる ・話題を変える など
 〈気持ちを伝える〉・褒める ・謝る ・感謝する ・望む ・驚く ・心配する など
 〈情報を伝える〉・説明する ・報告する ・描写する ・理由を述べる ・要約する ・訂正する など
 〈考えや意図を伝える〉・申し出る ・賛成する ・反対する ・主張する ・推論する ・仮定する など
 〈相手の行動を促す〉・依頼する ・誘う ・許可する ・助言する ・命令する ・注意を引く など

※試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ、更に整理する。

		A1	A2	B1	B2（参考）
（参考） CEFR 自己評価表		はっきりとゆっくりと話してもらえれば、自分、家族、すぐ周りの具体的なものに関する聞き慣れた話やごく基本的な表現を聞き取れる。	〈ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、近所、仕事などの〉直接自分に関連した領域で最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。短い、はっきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点を聞き取れる。	仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。 話し方が比較的ゆっくり、はっきりとしているなら、時事問題や、個人的もしくは仕事上の話題についても、ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。	長い会話や講義を理解することができる。また、もし話題がある程度身近な範囲であれば、議論の流れが複雑であっても理解できる。 たいていのテレビのニュースや時事問題の番組も分かる。 標準語が使われていれば、大多数の映画を理解できる。
国の指標形式の 主な目標		□挨拶や簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。 □日常生活において必要となる基本的な情報を聞き取ることができるようにする。 □ゆっくりはっきりと話されれば、身の回りの事柄に関する平易でごく短い会話や説明を、視覚情報などを参考にしながら理解することができるようにする。	□短い簡単なメッセージやアナウンスを聞いて、必要な情報を聞き取ることができるようにする。 □身近な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。 □ゆっくりはっきりと話されれば、身近な事柄に関する短い説明の要点を理解することができるようにする。	□身近な話題や知識のある社会的な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。 □比較的ゆっくりははっきりと話されれば、時事問題や社会問題に関する短い平易な説明を聞いて、要点を理解することができるようにする。 □比較的ゆっくりははっきりと話されれば、馴染みのある話題を扱ったラジオ番組やテレビ番組を視聴して、要点を理解できるようにする。	□母語話者同士による多様な話題の長い会話を聞いて、概要や要点を理解できるようにする。 □身近な話題に関する複雑な流れの議論を聞いて、話の展開を理解できるようにする。 □自然な速さで話される時事問題や社会問題に関する長い説明を聞いて、概要や要点を理解できるようにする。 □ある程度知識のある社会問題や時事問題に関するラジオ番組やテレビ番組を視聴して、概要や要点を理解することができるようにする。
説明	①部分の把握 ※音声の部分を把握して解答する問題	○日常生活における基本的な情報の聞き取り・把握 ・日付、曜日、時刻、単位を表す表現など、日常生活において必要となる基本的な情報を聞き取り、把握することができる。	○簡単なアナウンスや指示・説明からの情報の聞き取り・把握 ・店や公共交通機関など、日常生活における簡単なアナウンスや指示・説明を聞いて、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができる。	○身近な話題や馴染みのある社会的な話題に関する短い平易な説明からの情報の聞き取り・把握 ・身近な話題や馴染みのある社会的な話題に関する短い平易な説明を聞いて、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、複数の情報を比較して判断することができる。	○時事問題や社会問題に関する説明からの情報の聞き取り・把握 ・時事問題や社会問題に関する説明を聞いて、当該の話題に関するスピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、エッセイライティングなどにおいて活用するために、必要な情報を把握することができる。 ○ある程度知識のある話題のメディアや講義等の情報の聞き取り・把握 ・ある程度知識のある話題を扱ったメディアや講義等の説明を聞いて、必要な情報を把握することができる。
	②全体の把握 ※音声の全体を把握して解答する問題	○挨拶や簡単な指示の聞き取り・把握 ・挨拶や簡単な指示を聞いて、話し手の意図を把握することができる。 ○身の回りの事柄に関する平易でごく短い説明の概要・要点把握 ・友人や家族、学校生活など、身の回りの事柄に関して平易な英語で話されるごく短い説明を、イラストや写真などを参考にしながら聞いて、概要や要点を把握することができる。	○個人的な事柄に関する短い簡単なメッセージの把握 ・友人からの招待など、個人的な事柄に関する短い簡単なメッセージを聞いて、話し手の意図を把握することができる。 ○身近な話題に関する平易で短い説明の概要・要点把握 ・友人や家族、学校生活など、身近な話題に関する平易で短い説明を聞き取り、概要や要点を把握することができる。	○身近な話題や馴染みのある社会的な話題を扱ったメディアや講義等の情報の概要・要点把握 ・身近な話題や馴染みのある社会的な話題を扱ったメディアや講義等の説明を聞いて、概要・要点を捉えたり、複数の情報を聞き取って判断することができる。	○時事問題や社会問題に関する説明の概要・要点把握 ・時事問題や社会問題に関する説明を聞いて、当該の話題に関するスピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、エッセイライティングなどにおいて活用するために、概要や要点を把握することができる。 ○ある程度知識のある話題のメディアや講義等の概要・要点把握 ・ある程度知識のある話題を扱ったメディアや講義等の説明を聞いて、得た情報を他者に口頭で伝えるために、概要・要点を把握することができる。
会話・議論	①部分の把握 ※音声の部分を把握して解答する問題	○身の回りの事柄に関する平易でごく短い会話における必要な情報の聞き取り・把握 ・友人や家族、学校生活など、身の回りの事柄に関して平易な英語で話されるごく短い会話を、場面の情報などを参考にしながら聞いて、必要な情報を把握することができる。	○身近な話題に関する平易で短い会話における必要な情報の聞き取り・把握 ・友人や家族、学校生活など身近な話題に関する平易で短い会話を聞いて、場面の情報などを参考にしながら必要な情報を把握することができる。	○身近な話題や馴染みのある社会的な話題に関する短い会話・議論における必要な情報の聞き取り・把握 ・身近な話題や馴染みのある社会的な話題に関する短い会話・議論を聞いて、必要な情報を把握したり、複数の情報を聞き取って判断することができる。	○多様な話題の長い会話における必要な情報の聞き取り・把握 ・多様な話題の長い会話を聞いて、必要な情報を把握することができる。 ○複雑な議論における必要な情報の聞き取り・把握 ・身近な話題に関する複雑な流れの議論を聞いて、必要な情報を把握することができる。
	②全体の把握 ※音声の全体を把握して解答する問題	○身の回りの事柄に関する平易でごく短い会話における概要・要点 ・友人や家族、学校生活など、身の回りの事柄に関して平易な英語で話されるごく短い会話を、場面の情報などを参考にしながら聞いて、概要や要点を目的に応じて把握することができる。	○身近な話題に関する平易で短い会話の概要・要点把握 ・友人や家族、学校生活など、身近な話題に関する平易で短い会話を聞いて、概要や要点を目的に応じて把握することができる。	○身近な話題や馴染みのある社会的な話題に関する短い会話・議論の概要・要点把握 ・身近な話題や馴染みのある社会的な話題に関する短い会話・議論を聞いて、話題とそれに対する各話者の発話の要点を整理して比較・判断することができる。	○多様な話題の長い会話の概要・要点把握 ・多様な話題の長い会話を聞いて、話題とそれに対する各話者の発話の要点を把握することができる。 ○複雑な議論における話の展開や論点の把握 ・身近な話題に関する複雑な流れの議論を聞いて、話の展開を把握するとともに、各話者の主要な論点を整理して比較することができる。

○作問にあたっては、次の「言語の使用場面」及び「言語の働き」の例を参考にする。

〔言語の使用場面の例〕

〈特有の表現がよく使われる場面〉・買い物 ・旅行 ・食事 ・電話での応答 ・手紙や電子メールのやりとり など
〈生徒の身近な暮らしや社会での暮らしにかかわる場面〉・家庭での生活 ・学校での学習や活動 ・地域での活動 ・職場での活動 など
〈多様な手段を通じて情報などを得る場面〉・本、新聞、雑誌などを読むこと ・テレビや映画などを観ること ・情報通信ネットワークを活用し情報を得ること など

〔言語の働きの例〕

〈コミュニケーションを円滑にする〉・相づちを打つ ・聞き直す ・繰り返す ・言い換える ・話題を発展させる ・話題を変える など
〈気持ち伝える〉・褒める ・謝る ・感謝する ・望む ・驚く ・心配する など
〈情報を伝える〉・説明する ・報告する ・描写する ・理由を述べる ・要約する ・訂正する など
〈考えや意図を伝える〉・申し出る ・賛成する ・反対する ・主張する ・推論する ・仮定する など
〈相手の行動を促す〉・依頼する ・誘う ・許可する ・助言する ・命令する ・注意を引く など